

エリトリア

- 独立から17年

- 124年間の国づくり

- 人類の歴史と同じほど古い歴史とともに

アフリカの角地域の繁栄を確かなものにするための平和構築において
日本とエリトリアは手を取りあえるのか？

「国際共存」特別講義

エスティファノス・アフォワキ駐日エリトリア大使
2010年5月14日 於：東京工業大学

Content

- なぜアフリカの角の平和と安定がエリトリアにとって戦略的に重要なのか？
- 過去17年間、エリトリアが取り組んできた優先事項とは？
- 過去17年間に成し遂げたこと、直面した課題とは何か？
- 124年間のエリトリアの国づくりから得られる教訓とは？
- 現在、何が現場でアフリカの角の安定を脅かしているのか？
- “国際社会”は今日、アフリカの角で何をすべきでないのか？
- アフリカの角での日本の貢献のあるべき姿とは？

結論

参考配布資料

- Ethiopia's military occupation of sovereign Eritrean territories
- Eritrea's position on relations with Djibouti
- Eritrea's position on peace and justice in Somalia
- Position of Eritrea on UN SC arms embargo resolution 1907

アフリカの角地域

	言語・民族グループ	人口
エリトリア	9	550万人
エチオピア	86	8600万人
ジブチ	2	50万人
ケニア	40	3900万人
スーダン	600	3500万人
ソマリア	1	1000万人
ウガンダ	35	3200万人
	計 746	計 2.03 億人

なぜアフリカの角の平和と安定が エリトリアにとって戦略的に重要なのか？

エリトリアは、17歳という若い国であるが、現在非常に重要な時期にある。つまり、地域間関係の核心および基準として、経済繁栄、自家製の人間の安全保障へのコンセンサス、文化、政治、民主主義、統治をつくりあげるといふ明確な目標のもとに新しい国を造るといふ時期にある

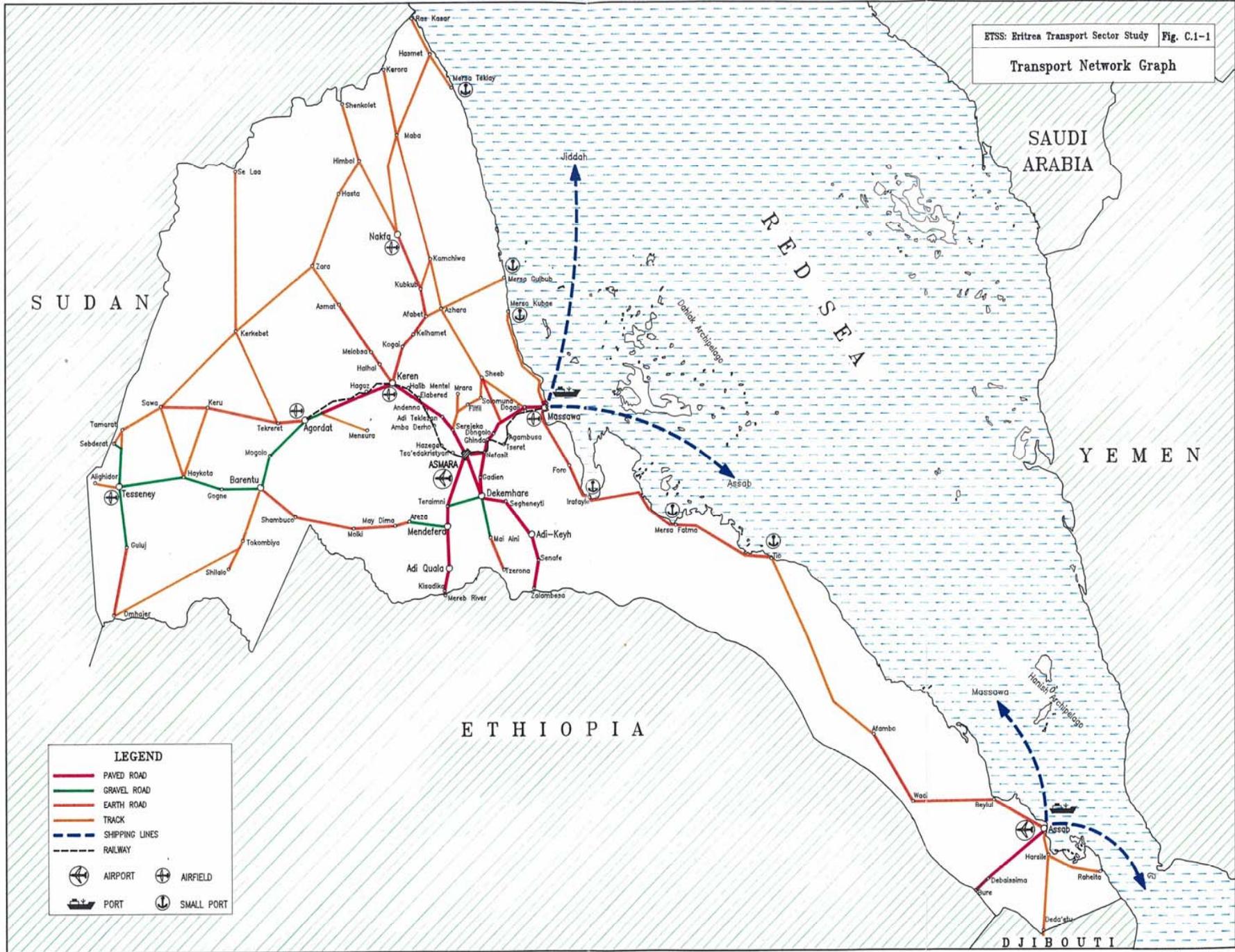
理想的な戦略上重要な立地

紅海に沿って1400km以上の海岸線が伸びている

豊富な天然資源および、アジア・アフリカとの長年にわたるビジネス・貿易の経験を有する

革新的な自助努力が国づくりや政府や人々の尊厳によって、ゆっくりとではあるが確実にアメリカとソ連による60年間の廃墟の灰の中からエリトリア人を立ち直らせている

Transport Network Graph



LEGEND

- PAVED ROAD
- GRAVEL ROAD
- EARTH ROAD
- TRACK
- - - SHIPPING LINES
- - - RAILWAY
- AIRPORT
- AIRFIELD
- PORT
- SMALL PORT

•1960年代には多くのアフリカ諸国が食料輸出国
2010年現在、多くのアフリカ諸国は食料輸入国

•包括的食料安全保障プログラムにより成果
外国への食料依存率は、90%以上減少
穀物や魚介類の自給率は70%に上昇

•1993年から1997年、経済成長率は7.4%
インフレ率は、5%以下に抑制

•1993年から1997年、輸出外貨準備高が7ヶ月レベルに

•1993年から1997年の、エチオピア経済と同様にエリトリアは、構造調整と持続可能な発展に移行

•軍人をさらに多く復員させ、軍事費削減により経済成長を後押しした

•不幸にも、またアフリカの角で、エリトリアとエチオピア双方において、第二次世界大戦後のアフリカの角の代理人や現実を知らないわけではなく、平和のために働いてきた全ての軍隊を失望させたことに、エリトリアは、“W e y a n e”とその軍隊によって、1998から2000年にかけてふたたび、攻撃され侵略された

● この10年間の世界的な一次産品の価格の上昇によるエリトリアへのFDI(外国直接投資)フローのポジティブな側面

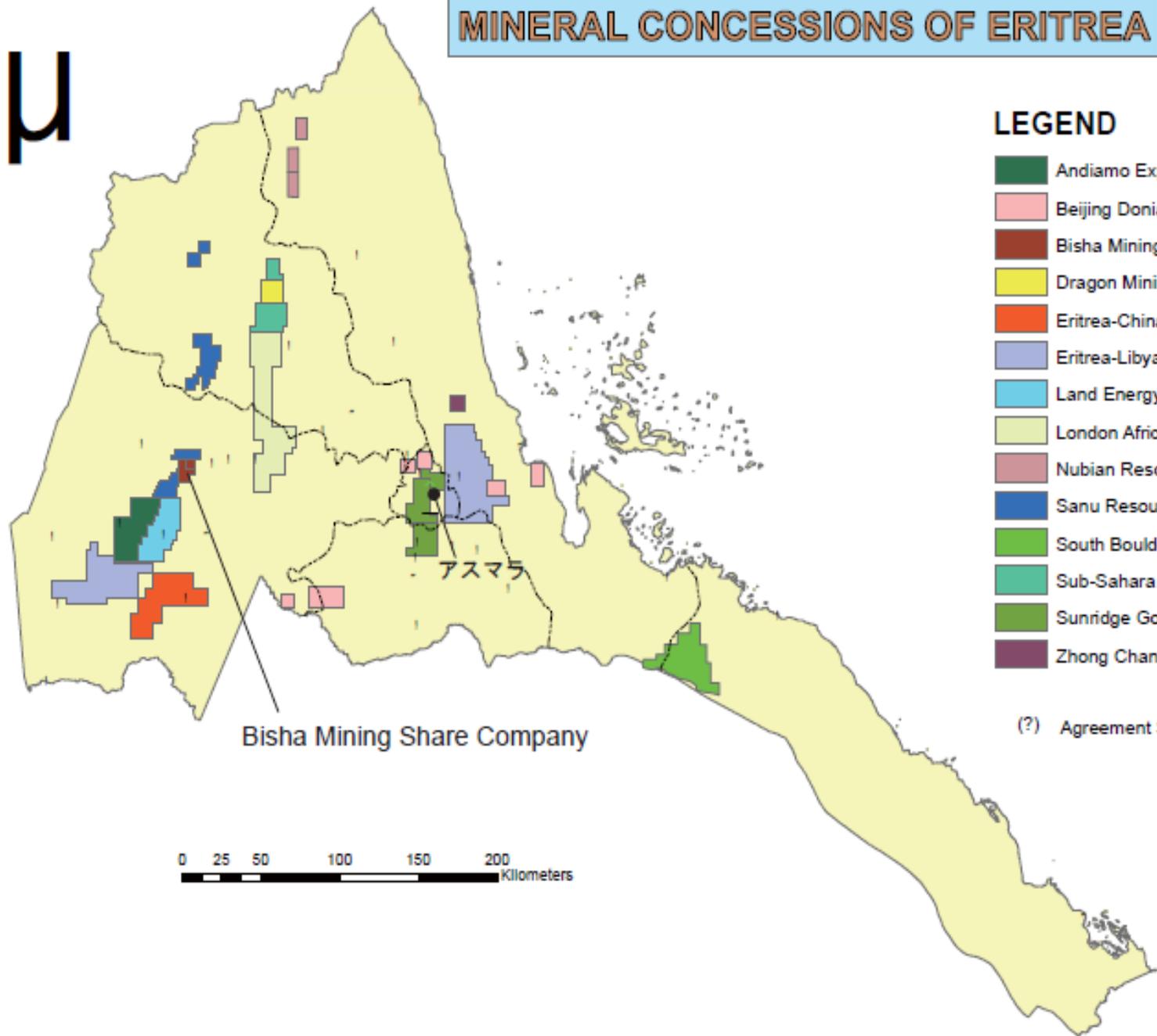
● 22の多国籍企業が現在、テレコミュニケーション、ガス、石油、鉱産資源の分野において稼働

● 過去17年間に小規模なしかし重要な生産活動が、現地投資とFDIフローを通じて、以下の伝統的産業分野で行われてきた

: 農業、食料、製革、織物、装飾品、化学薬品 等

MINERAL CONCESSIONS OF ERITREA

μ



LEGEND

- Andiamo Exploration Limited (英)
- Beijing Donia Resources Co., Ltd. (中)
- Bisha Mining Share Company (加、エリトリア)
- Dragon Mining/Sub-Sahara (豪)
- Eritrea-China Exploration & Mining Sh. Co. (中、エリトリア)
- Eritrea-Libya Mining Sh. Co. (リビア、エリトリア)
- Land Energy Group China Co., Ltd. (?) (中)
- London Africa Limited (英)
- Nubian Resources PLC/Gippsland Limited (?)
- Sanu Resources Inc. (米、加) (豪)
- South Boulder Mines Ltd. (豪)
- Sub-Sahara Resources NL (豪、加)
- Sunridge Gold Corporation (加)
- Zhong Chang Mining Co., Ltd. (中)

(?) Agreement Signing Pending

0 25 50 100 150 200 Kilometers

独立後はじめての近代的鉱山であるビシャ鉱山では
2010年に以下の生産が見込まれている

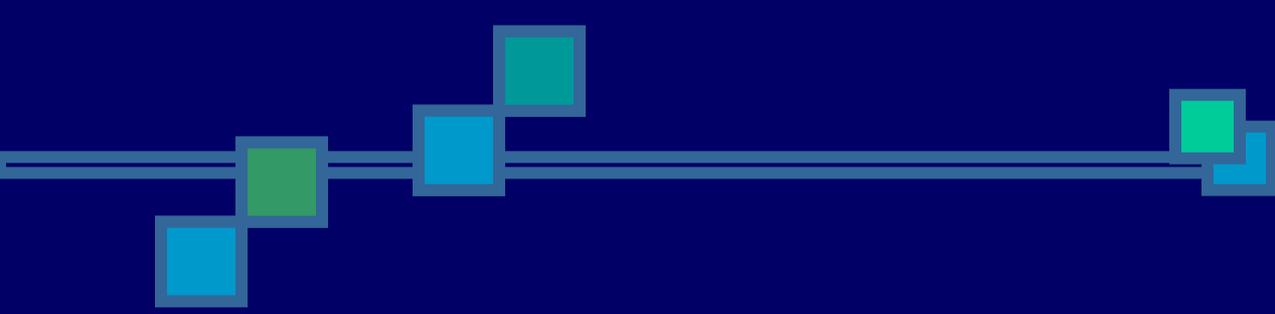
金 106万 オンス 銀 940万オンス

銅 7億3400万ポンド 亜鉛 10億7500万ポンド

ビシャ鉱山は、最初の2年間は低コストの金生産者、お
よび残りの10年の鉱山寿命は、低コスト高品質の銅と
亜鉛の生産者となる

Winner of the 2009 Thomson Reuters PFI Award

"Africa Mining Deal of the Year" - Thomson Reuters

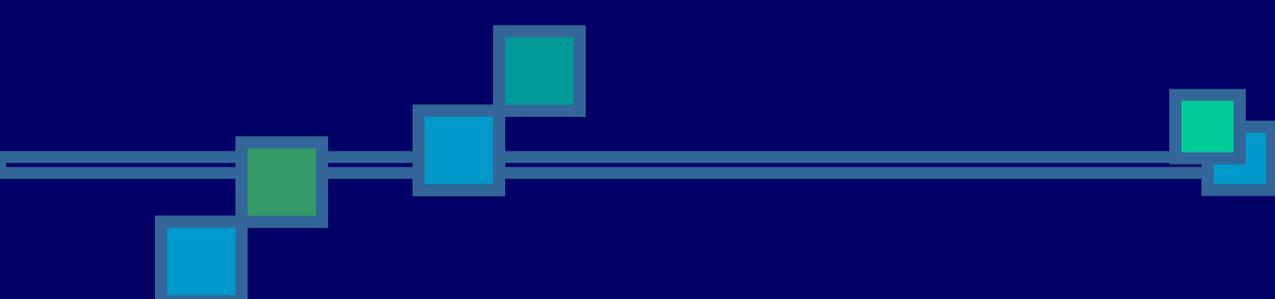


Sunridge Gold Corp.は若い企業だがアスマラプロジェクトの4つの推定鉱床を成功裡に明確にした
(60年代後半70年代初頭におけるNippon Miningの採掘地)

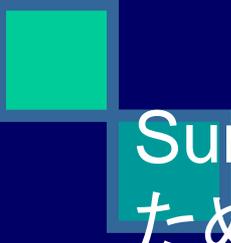
Sunridgeはアスマラプロジェクトにおいて3つの鉱床を持ち、それらは以下を埋蔵している

銅	58万トン	亜鉛	113万トン
金	105万オンス	銀	3180万オンス



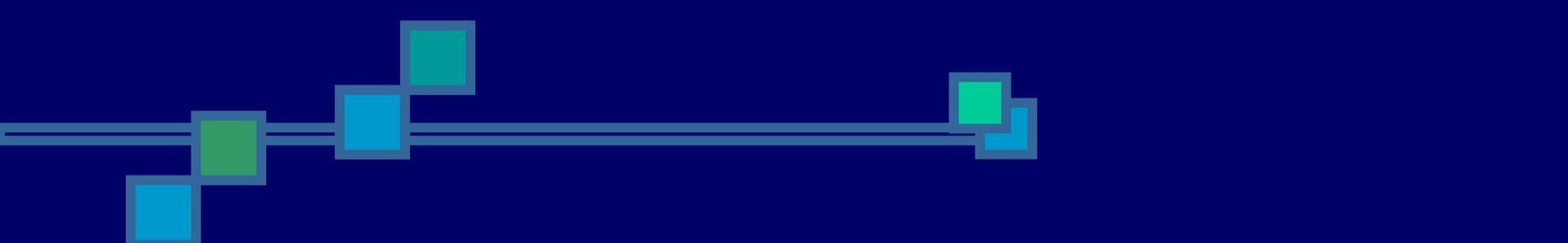


加えて、Gupo金鉱床は、予想されるカテゴリーで18.9万オンスの金を含有する



Sunridgeは、アスマラ・プロジェクトをさらに拡大するためにAntofagasta Minerals S.A. と戦略的パートナーシップを組んだ
(丸紅はAntofagastaの30%の株主)





こういった開発や相互利益は、安全で平和で、経済的に統合された競争力のある地域においてのみ可能である

公然にしる非公然にしる、勇敢で誇り高い人々は数世代にわたって非人間的な奴隷制、植民地主義、冷戦を含め超大国のアフリカ大陸への拡大によってもたらされた残虐行為と戦ったきのだからアフリカの角の人々は、過去のどんな時代よりも戦争でなく、平和をもつに値する

過去17年間、エリトリアが取り組んできた優先事項とは？

- 国のインフラの修復および再構築
- “Warsay - Yikalo Plan”の実施
- 農業生産の推進と向上
- 民間投資の促進
- 教育、医療、栄養分野への投資
- 輸出促進
- 環境保護の推進
- 国の発展に向けてコミュニティおよびさまざまな資源の動員

過去17年間に成し遂げたこと、また直面した課題とは何か？

■ 成果

- テレコミュニケーション(ICT)
- インフラ
- 農業
- 統治
- 医療
- 工業
- 鉱業
- 教育
- サービス
- Warsay Yekalo Plan からの配当は、現在経済再生へ顕著に影響している

■ 課題

- "アメリカの"エリトリア・エチオピア間には平和もなく戦争もない"というポジション

124年間のエリトリアの国づくりから 得られる教訓とは？

- イタリア植民地主義と第二次世界大戦とエリトリア
- エリトリアの米軍基地 (1941- 1976)
- 独立と闘争へのエリトリアの人々の権利
- 1941年から1976年の歴史的な選択としてのエリトリアの連邦編入および併合へのアメリカの外交政策および軍事的支援
- それにより起こった1941～1976年のエリトリアの暗黒の日々

- エチオピア、ソマリア、ジブチの連合の下での、ソ連の“エリトリアとオガデンの地域自治”に対する外交政策と軍事的支援
- それにより起こった1977～1990年のエリトリアでのソ連とその同盟国による野蛮な戦争
- エリトリアの独立は、1993年の国連支援の国民投票と投票箱を通じて平和的に宣言された
- 1998年のエチオピア政府によるエリトリアへの宣戦布告—Badmeとその周辺を自国領と主張
- エチオピアのエスカレートするエリトリアへの侵略により、両国において多くの人命が失われた

国際社会の支援により2000年12月にエリトリア・エチオピア両国によって署名された最終的な拘束力のあるアルジェリア和平協定に基づき、エリトリア・エチオピア国境委員会(EEBC)は2002年4月に、Badmeとその周辺地域をエリトリア領とする裁定を下した

- アメリカとイギリスの支援を受けたエチオピアは国境委員会の裁定に従うことを拒否した

- なぜか?

WHY?

- イタリア植民地主義は現在のエリトリアあるいはエチオピアに平和裏に入ってこなかった
 - 植民地軍(イタリア人、ドイツ人、エリトリア人※で編成)は、1941年4月1日に6ヶ月間の抗戦ののちに、アスマラで連合軍に降伏した
 - 1941年4月11日にアメリカ海軍がマッサワ港に入城した
 - イギリス軍は価値のあるものを全て解体し、トタンや釘、ビシャーアゴルダット間の線路や鉄道資材、工場、ドライドック、世界一の長さを誇ったロープウェイ、鉄屑などを含むあらゆるものを他のイギリス領植民地に輸送した
- (Sylvia Punkrust著「Eritrea on the Eve」が良い参考資料になるだろう)

- 北アフリカと東アフリカで従軍した10万人以上のエリトリア人兵士の歴史は、ヨーロッパの戦勝国と敗戦国の双方によって裏切られた
地元の人々により、飢餓、大量破壊、失業、苦難として描かれたイギリスとアメリカの軍事支配がエリトリアの人々に押し付けられた

※ “アスカリ”は、第二次世界大戦中、ロンメル将軍の名で知られる北アフリカ・東アフリカでの戦場で（連合国、枢軸国サイドのどちらにせよ）従軍した南アフリカ人、エリトリア人、ソマリア人の黒人兵士に与えられた名称

連合国軍のエリトリアへの前進 1945年



- 1. 1868年のイギリスのインドからエチオピアへの遠征
- 2. 1941年5月のイギリスのスーダンからの遠征 “ギデオン部隊”

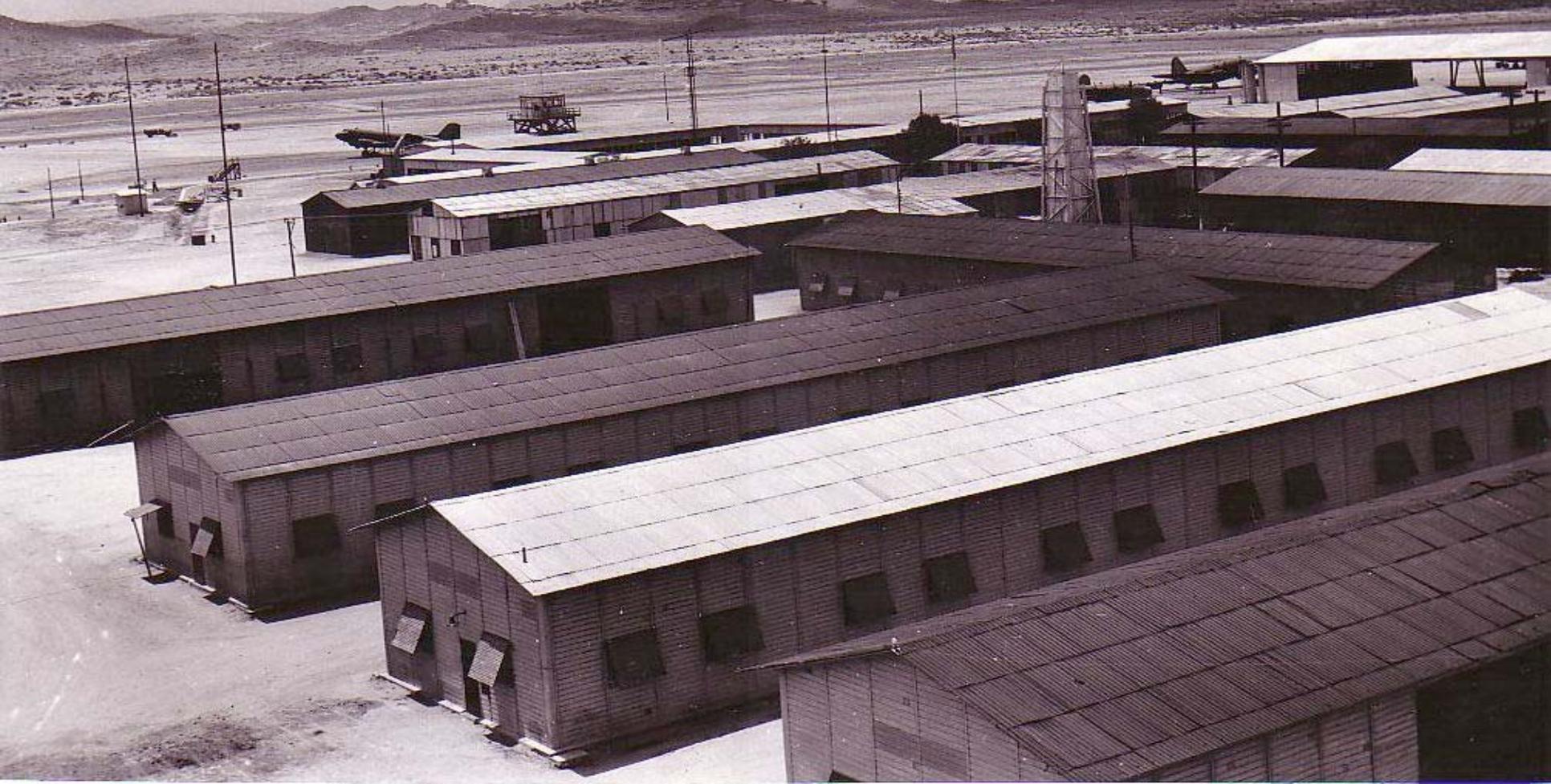
第二次世界大戦中
1941年にイギリス空軍により空爆
されたGura空港を修復するエリト
リア人労働者たち



1949年の鉄道スト最中のエリトリア鉄道職員



1942年 Guraに建てられたダグラス軍用機の
秘密組立工場とメンテナンス基地。5000
人以上のアメリカ兵が配置



GejeretのTrack A海軍基地
受信機を擁し1000人以上の部隊が
配置されていた

Collegio Santa Anna

Arial View of USARS Sep 1951

- | | | |
|-------------------------|---------------------------------|---------------------------|
| 1 Main Gate | 11 Motor Pool | 21 Officers Club |
| 2 Hospital | 12 Sec Det Bks | 22 Transient Barracks |
| 3 Head Quarters Bldg | 13 Navy Barracks | 23 Officers Quarters |
| 4 Power Bldg | 14 9434 TSU Barracks | 24 Top 3 Graders Barracks |
| 5 Residence Co 9434 TSU | 15 Post Grammer School I | 25 Top 3 Graders Club |
| 6 Guardhouse | 16 Ball Field | 26 Doctors Home |
| 7 Post Utilities | 17 Operations Barracks | 27 Mess Hall |
| 8 Engineers Supply | 18 Library | 28 Bowling Alley |
| 9 Commissary | 19 Spec Services & Theater Bldg | 29 Dispensary |
| 10 Sec Det Supply | 20 PX & Snack Bar | 30 American Consulate |

1955年 MikaeのTrack E 基地
1万人以上の部隊が配置



1955年 Track C 基地
– Asha Golgolにある受信機を要す
るアメリカ海軍基地

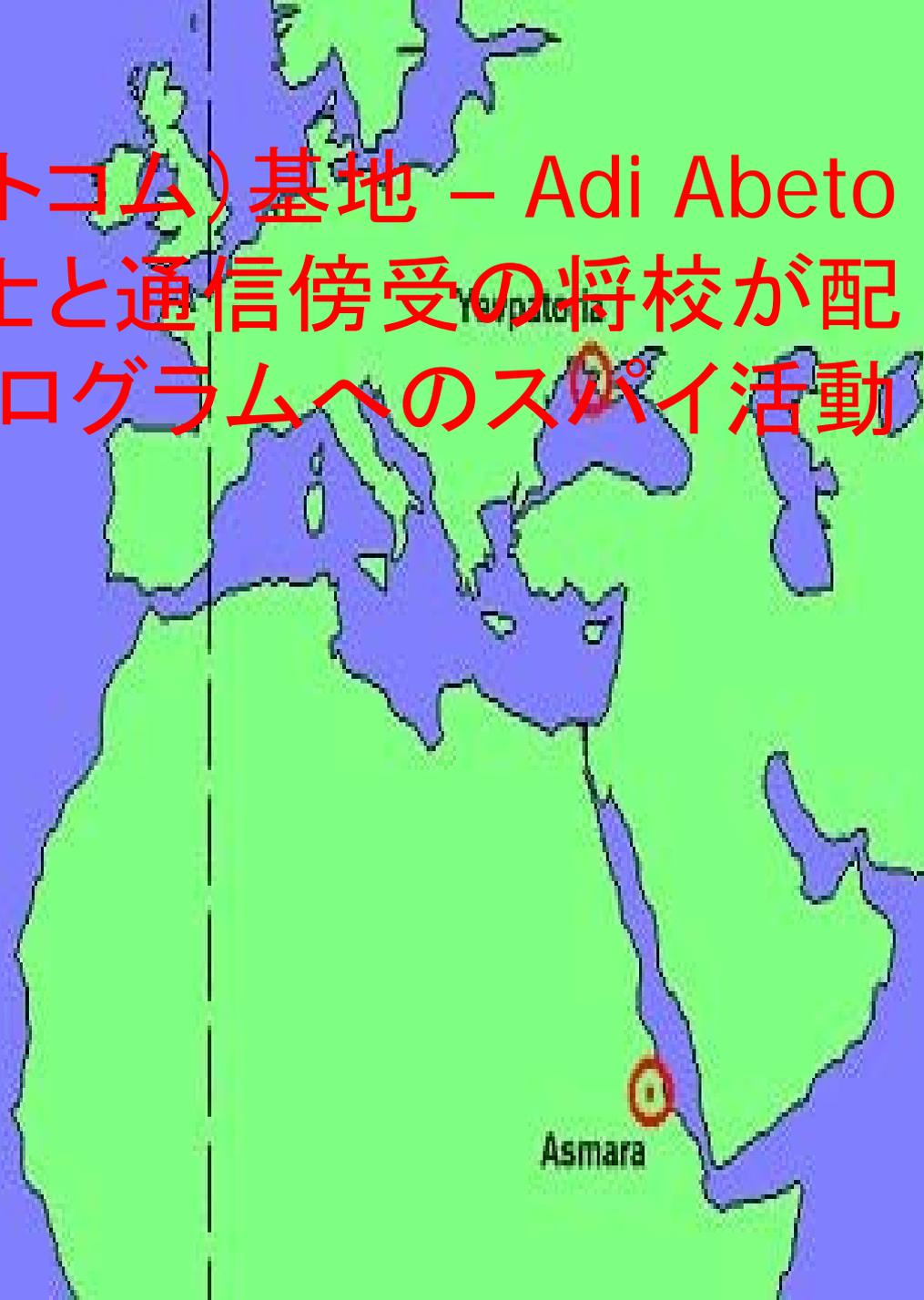


Track F 基地 – Adi Sogdoに位置する
受信機を擁する基地で主にアメリカの2
段式弾道ミサイルポラリスのために配
置された100名の兵士と将校



アメリカ戦略軍(ストラトコム)基地 - Adi Abeto
に位置し100名の兵士と通信傍受の将校が配
置され、ソ連の宇宙プログラムへのスパイ活動

85 ft antenna
under construction



アメリカ軍カニューー基地 アスマラ



ソビエト ロシア

- アフリカの角に投入されたのは、200億ドル相当の武器、1800名以上のソ連軍将軍・将校、2000名以上のブルガリア・チェコスロバキア・ハンガリー・東ドイツ・ポーランドからの将軍・将校、3000名以上の北朝鮮からの将軍・将校、2万人以上のキューバからの兵士・将軍将校、3000名以上のイエメンからの将軍将校、そしてエチオピアからの100万人の訓練された兵士。これらがエリトリアの人々の自決権と独立、エチオピアの人々の自治と政治的民主主義への権利を粉砕するために送り込まれた (1976 – 1990)

- イスラエルとチリは、この時期に、クラスター爆弾と諜報部員を断続的に送り込んだ
- エリトリアの島嶼部のNakura港は、2000名以上の兵士が配置された、現水力潜水艦の秘密基地に変貌させられた

現在、何が現場でアフリカの角の安定を脅かしているのか？

- 1992年に、アメリカは“人道上の配慮”からソマリアに介入することを決定

この地域に適用されたとくにブッシュ政権のアメリカ軍の「味方につくか、敵にまわるかの、どちらか一方しかない」というポリシーがこの地域の平和を築く政治的な意志を損なっている

- 2000年にエチオピアとエリトリアによってなされた合法的で、拘束力をもつアルジェリア和平協定の実施をアメリカは破壊した。これによりこの10年間、両国の間には、戦争もないが平和もないという状態が続いている

- “Tigray group” (エチオピアで現在政権を握っているグループ)は、野党指導者や何の罪もないその支持者を殺害し、抑圧し、2005年のエチオピアの選挙を抹殺した
- “Tigray group” (エチオピアで現在政権を握っているグループ)は、国を Tigray, Amahara, Ogaden, Benshangul, Oromo などの小国家に分断する戦略と意図を持っている。エリトリアの立場は、独立国である統一エチオピアというものである

- 欧米勢力はソマリアをJuba Land, Puntalana, Somaliland, Benadirlandなどに分断する意図を持っている
- スーダンに関するナイバシャ和平協定が直面している困難は、スーダンをミニ国家群に分割しようと考えている欧米勢力と地域の利害関係者によるものである
- 悪名高いソマリアの軍閥とアメリカとの協力によるエチオピアのソマリア侵攻は、国連安保理決議1725号(2006年)に違反している

エチオピアとソマリアは、過去において、大きな戦争に突入している：1964年と1977年に、アメリカとソ連を巻き込み、両勢力が入れ替わる形での戦争になった

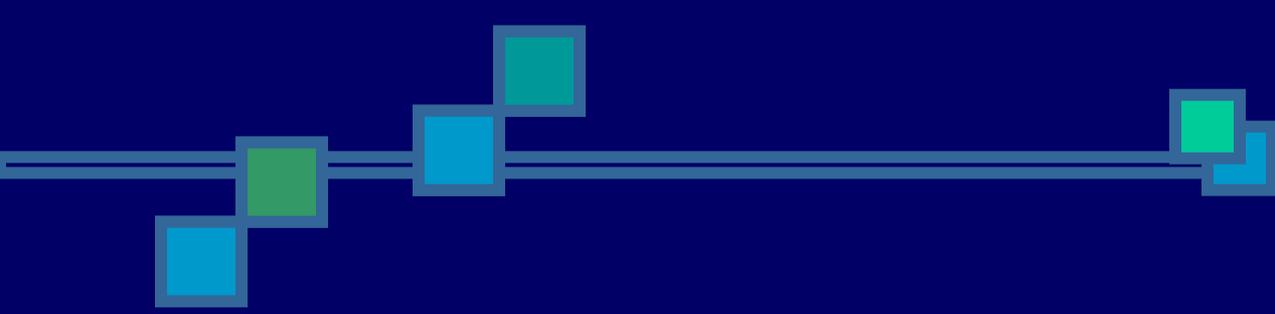
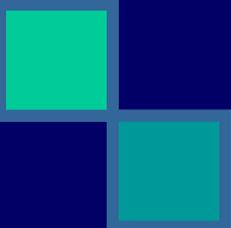
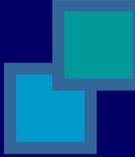
これによって、ソマリアでの法の統治（たとえば政治的平和的なソマリア危機の解決）は、脅かされ、無法地帯にとってかわられようとしている。人道危機、海賊、非合法的な人身売買、金融、物質、不法ドラッグ、武器や弾薬がひろがり、ジブチ、エチオピア、ケニア、イエメンなどを巻き込み、プレイヤーたちは洗練されていき、日常的にこの地域では“火器を用いた危険な遊び”が行われている

“国際社会”は今日、アフリカの角で 何をすべきでないのか？

アメリカとその同盟国、あるいは他のいかなる台頭してきている軍事大国も、アフリカの角の国を軍事化させることや代理戦争、アフリカの角での軍事的支配の復活という誘惑をやめるべきである。なぜならば、現在の世界経済はもっとましな選択肢がふさわしい。また現在のアフリカ53カ国の主権および領域的統合は認められて然るべきである

アフリカの角での日本の貢献の あるべき姿とは？

- 国連を改革する差し迫った必要性における協力を真剣に議論する
- アフリカの角は、世界にとっての貿易ルートであるので、地域の安定を維持し、繁栄を確かなものにするための努力に参加する
- このアフリカの戦略的重要地域への日本企業の投資や進出を促進する

- 
- この地域の、人類の歴史と同じくらい古い豊かな文化遺産や、美しいさんご礁の砂浜や島々、豊かな生物多様性と、日本の観光業の提携を促進する
 - この地域の国々と戦略的パートナーシップ(FDI)を築くために、科学、資源、エネルギー外交における相互努力を促進する
- 
- 

安全保障のジレンマ

- 1941年の90日間の「ケレン戦」とその後遺症
- 1945年の82日間の「沖縄戦」とその後遺症

69年前のこの歴史的な戦闘のあと、アメリカとイギリスは、身を引き、アフリカの角とその地域の人々の続いているセキュリティ・ジレンマについて熟考する必要性を理解する必要がある

- この歴史的な戦闘の65年後、アメリカは身を引き、沖縄の人々の声を熟考する必要がある

“ローカルな知識や技術の交換”

日本—エリトリア親善サイクリング

tooth care and its future

